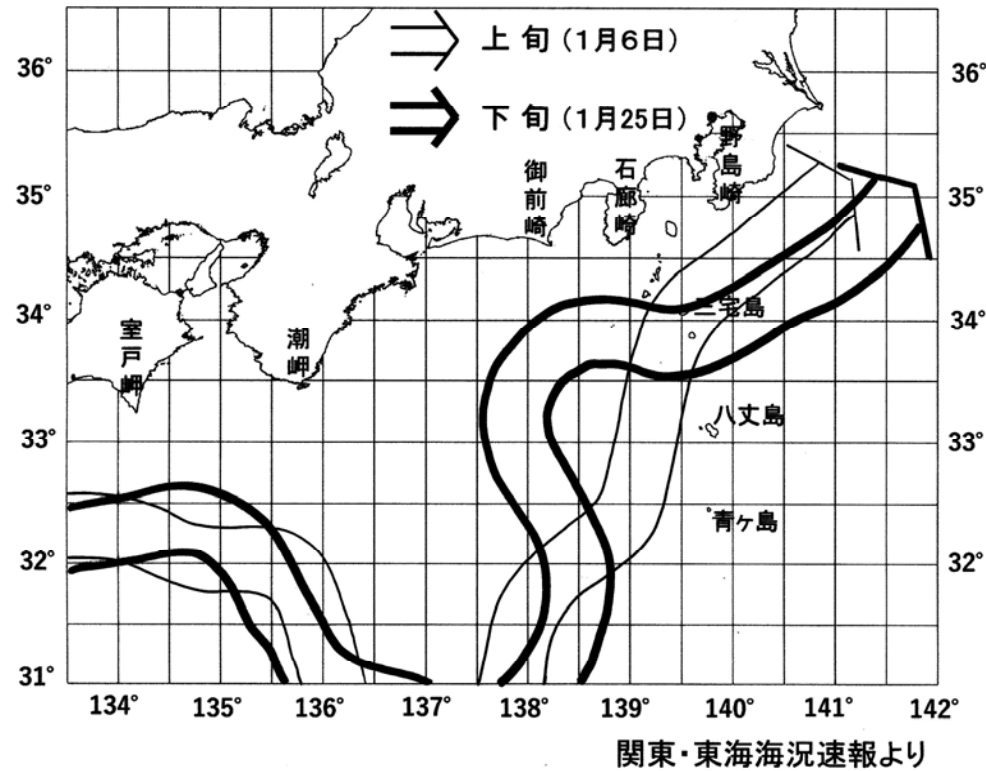


漁海況月報

令和2年1月1日

No.1 ~1月31日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



1月定地水温の旬平均値() (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	17.4	18.1	16.9	18.3	18.1	16.8
	2.1	2.2	1.7	2.7	2.5	2.0
中旬	17.2	17.1	16.5	17.0	16.8	16.0
	2.3	1.8	1.8	1.9	1.7	1.7
下旬	16.3	17.0	16.3	17.2	16.6	15.2
	1.8	2.0	2.0	2.6	2.1	1.2
月	17.0	17.4	16.5	17.5	17.2	15.9
	2.1	2.0	1.8	2.4	2.1	1.5

*地頭方の水温観測は終了しました。

[黒潮流路]

1月を通じてA型で、上旬は潮岬沖32°Nから南南東に進み、30.5°N、137°E付近まで南下した後に、137.5-139.5°Eの間を北北東に流れ、三宅島付近から北東に流去した。中旬は潮岬沖31°Nから東南東に進み、30.5°N、137.5°E付近まで南下した後に、138°E付近を北上し、八丈島の西で北東に向きを変え、三宅島の南を通してさらに北東に流去した。下旬は潮岬沖31°Nから東南東に進み、30.5°N、137.5°E付近まで南下した後に、137.5-139°Eの間をS字状に北上し、三宅島付近を通して北東に流去した。

下旬には、御前崎沖の黒潮屈曲部から遠州灘～熊野灘に向けて、三宅島西から駿河湾東部、大島西水道に向けて、それぞれ暖水波及がみられた。

[県下沿岸域]

1月上旬は、伊東、稲取、下田、焼津「高め」、雲見、沼津「かなり高め」であった。中旬は、伊東、稲取、下田、雲見、沼津、焼津とも「高め」であった。下旬は、焼津「やや高め」、伊東、稲取、下田、沼津「高め」、雲見「かなり高め」であった。

[竿釣りカツオ]

1月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海及び沿岸竿釣り船によるカツオの水揚げはなかった(前年同月の水揚げ量は7トン)。

釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚げ(県内主要5港)

期間	水揚げ(ト)	水揚げ隻数	平均水揚げ/隻(ト)	平均単価(円/kg)
R2年1月上旬	0	0	-	-
中旬	0	0	-	-
下旬	0	0	-	-
R2年1月計	0	0	-	-
H31年1月計	7	1	6.6	236
H30年1月計	28	2	14.1	377

[定置網]

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚げ量は169.1トンで前年の同漁場の水揚げ量(91.7トン)の1.8倍であった。また、1か統あたりの水揚げ量は、24.2トンで前年(13.1トン)の1.8倍、平年(昭和57年～平成31年の平均33.5トン)の72%であった。水揚げ量の多い漁場は、北川漁場(32.6トン、オアカムロ、さば類、スルメイカ)、次いで古網漁場(30.1トン、カタクチイワシ、マルソウダ、サンマ)であった。

多獲された魚種の水揚げ量は次頁(表)の通りで、カタクチイワシは32.6トンで、前年比32,634倍、平年比80%であった。さば類は27.7トンで前年比1.5倍、平年比58%であった。漁獲されたさば類のうち、ゴマサバは17.0トン、前年比1.8倍、平年比38%、マサバは10.7トン、前年比1.1倍、平年比2.3倍であった。オアカムロは25.2トンで、前年比120倍、平年比60.1倍と1月の水揚げ量としては昭和57年以降最も多かった。魚体は30cm前後主体であった。マルソウダは24.1トンで、前年比1.7倍、平年比14.1倍と1月の水揚げ量としては昭和57年以降最も多かった。魚体は30cm前後主体で

あった。マイワシは18.1トンで、前年比3.0倍、平年比79%であった。

多獲された魚種の主な漁場は、以下(表)の通りで、各漁場の水揚量の割合は、カタクチイワシでは古網漁場が64%(21.0トン)、伊豆山漁場が36%(11.6トン)、さば類では北川漁場が27%(7.5トン)、谷津漁場が19%(5.4トン)、伊豆山漁場が16%(4.5トン)、オアカム口では北川漁場が73%(18.4トン)、マルソウダでは谷津漁場が40%(9.6トン)、伊豆山漁場が17%(4.1トン)、川奈漁場が15%(3.6トン)、マイワシでは谷津漁場が63%(11.4トン)、富戸漁場が15%(2.7トン)を占めた。

(表) 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	水揚量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
カタクチイワシ	32.6	32,634	0.80	古網、伊豆山
さば類	27.7	1.47	0.58	北川、谷津、伊豆山
オアカム口	25.2	119.50	60.14	北川
マルソウダ	24.1	1.65	14.09	谷津、伊豆山、川奈
マイワシ	18.1	2.98	0.79	谷津、富戸

[サバたもすくい・棒受網]

小川港所属の棒受網漁船の操業は12日に利島で始まったが、漁況は極めて低調であった。しかし、マサバの南下が本格化した下旬以降、漁況は好転し、漁場は利島に形成された。水揚量はマサバ324トン(前年同月比70%)、ゴマサバ176トン(前年同月1.1倍)であり、1隻あたり水揚量はマサバ14.1トン(前年同月21.2トン)、ゴマサバ7.7トン(前年同月7.0トン)であった。1kgあたり平均単価はマサバ156円で前年同月(128円)を上回った。ゴマサバは121円で前年同月(118円)とほぼ同額であり、前月(130円)を下回った。

漁獲されたマサバの体長組成は33cmにモードを持つ単峰型、ゴマサバの体長組成は32cmにモードを持つ単峰型を示した。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
R2年1月上旬	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中旬	3	28	4	9	0.3	3.1	274	136	利島 三本
下旬	321	148	5	14	22.9	10.6	155	118	利島
R2年1月計	324	176	9	23	14.1	7.7	156	121	利島 三本
H31年1月計	465	155	7	22	21.2	7.0	128	118	利島 三本
H30年1月計	373	214	6	21	17.7	10.2	137	121	三本

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

*表中の「-」は水揚げがなかったことを示す。

[シラス船曳網]

県内主要6港における1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が43kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が113kgであった。平均水揚量は69kgと前年同期(125kg)の55.7%、平年同期(過去5か年平均:322kg)の21.5%であった。また、総水揚量は9.9トンで前年同期(22.3トン)の44.1%、平年同期(77.2トン)の12.8%と、前年、平年同期を下回った。平均単価は1,447円/kgと、前年同期(1,285円/kg)の1.1倍、平年同期(680円/kg)の2.1倍と、前年、平年同期ともに上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均水揚量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	0	0	0	-	-
舞 阪	0	0	0	-	-
福 田	1.2	1	20	58	1,473
御前崎	4.8	3	33	146	1,194
吉 田	2.8	4	47	60	1,419
静 岡	1.1	2	42	25	2,654
R2年1月計	9.9	10	142	69	1,447
H31年1月計	22.3	14	179	125	1,285
H30年1月計	18.0	16	209	86	1,686

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

*平年同期:過去5か年(平成27~平成31年)平均値

[まき網(いわし類)]

マイワシの水揚量は、伊東港では138.2トン(前年同月比2.6倍、平年同月比2.9倍)、沼津港では167.5トン(前年同月比2.4倍、平年同月比1.9倍)、小川港では11.9トン(前年同月比22.5%、平年同月比17.9%)、静浦港では水揚げが無かった。カタクチイワシは、伊東港、静浦港、沼津港、小川港において水揚げが無かった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網7か統の水揚量は、マイワシは18.1トン、カタクチイワシは32.6トンであった。
*平年:過去5か年(平成27~平成31年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

1月7日 地先定線観測調査 (1日間)
1月9日 ~ 1月10日 地先定線観測調査 (2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

